

地域や学校における国際理解教育の実践と課題

～キャリア教育に関わる授業実践を通して～

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 木幡 教諭

1 はじめに

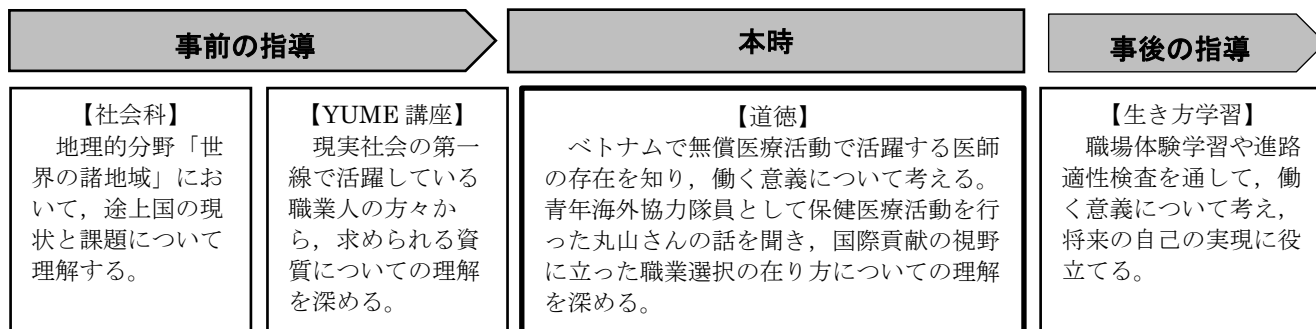
「派遣先は、ハノイ日本人学校です。」4年前、所属校の校長にそう告げられた瞬間、正直頭の中が真っ白になった。ベトナム戦争、枯れ葉剤、ベトちゃんドクちゃん、そして途上国。ネットで生活状況を調べるたびに、不安は大きくなっていった。しかし、いざ赴任し、3年経つころには私にとってベトナムは第二の故郷となっていた。日本から見ただけでは知ることができない現地での生活は、多面的・多角的に物事を見て考える視点を与えてくれた。また、開発途上国から新興国としての勢いが街中にあふれるベトナムの経済発展は、高度経済成長期の日本を思わせるものであった。

さらに私を最も成長させてくれたのは、ハノイ日本人学校の子どもたちであった。最初は日本の生活よりも不便なベトナムでの生活をあまり好ましく思っていなかった子どもたちが、3年経つ頃には、日本の高校・大学で学んだ後、将来、ベトナムのために働きたいという強い意志をもつ変容過程を目の当たりにした。これは、地方に生きる宮崎県の子どもたちにも同じことが言えるのではないだろうか。帰国後に赴任した本校（宮崎西高等学校附属中学校）には、関東・関西地区の大学へ進学し、そのまま都会で就職したり海外で活躍したりすることを望んでいる生徒が多い。海外へ行く前の自分であったら素直に応援していただろう。しかし、日本人学校の子どもたちから学んだ今、本校の生徒には経験を積んだ後、宮崎に戻り、宮崎のために活躍する人材へと育てて欲しいと願う。そんな思いも込めながら国際理解教育を通し、キャリア教育に関わる授業の実践を行った。

2 研究構想

(1) 総合単元的な構成の工夫

社会科における世界の諸地域の学習と本時との関連や新聞スクラップや総合的な学習の時間での取組などを系統付け、本時道德の時間を中核とする総合単元的な構成を工夫することとした。下の図に示すように、社会科の時間に獲得した途上国の現状と課題に対する認識やYUME講座で得た職業意識を本時道德の時間でしっかりと深めさせることで、授業後における今後の生き方学習の質を高めることができると考えた。



(2) JICAとの連携

JICAの出前講座を活用し、国際人として活躍する生き方や途上国に魅せられた理由について話していただくことで、多面的・多角的な見方や考え方を身に付けられると考えた。

(3) 保護者との連携

本授業を参観日に行うことで、国際理解教育に対する保護者への啓発も行った。国際的に活躍できる人材育成の上で保護者の協力は不可欠だと考えた。

3 研究仮説

学校でのキャリア教育を通して、道徳の時間を中核とした総合単元的な構成の工夫を行い、JICAや保護者の協力を得た授業を構築することができれば、国際社会に貢献していこうという態度を育成することができるのではないかと考えた。

4 授業の実際

第1学年 道徳学習指導案

1 主題名 国際社会に生きる私たち ～ 人間は、人を助けるようにできている ～

2 ねらいと資料

- 開発途上国の現状や開発途上国と日本との関係について関心をもち、グローバル社会が進展するなか、国際協力や国際貢献を実践していこうとする態度を育てる。
- 資料「逆境と国境を越えて（一部抜粋）」（みやぎき中央新聞）、「人間は、人を助けるようにできている（一部抜粋）」（あさ出版）

3 主題設定の理由

- 本主題は、内容項目4—(10)「世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。」を主なねらいとして構成している。
グローバル化の進展により、近年ますます国際人としての資質が問われ始めている。現在、日本の海外旅行者は1,750万人にも上り、大都市の空港に行かずして近隣の空港から気軽に海外へ渡ることができる時代になっている。一方、訪日外国人は円安の影響も受けて1000万人を超えており、年々増加する一途である。その多くが観光客はもちろん、アジアからの留学生や仕事で訪れた労働者であり、日本語以外の言語を宮崎県内でも耳にすることが増えてきた。4年後に東京オリンピックを控えた日本は、英会話の習得という表だけの国際人ではなく、国境を越えて世界の諸問題について考え、その解決に貢献していこうとするグローバルな人材が求められている。次世代を担う中学生のこの時期に、国際協力や国際貢献に携わった方の体験を聞いたりその思いに触れたりすることは、強い意志をもって国際社会に貢献していこうという態度を育てていく上で大変意義深いと考え、本主題を設定した。

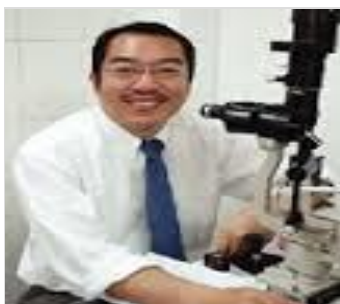
- 本学年の生徒（男子39名，女子41名）は，道徳の時間に取り組む態度は良好であり，資料や映像，エピソードなどに含まれる様々な道徳的価値を的確にとらえ，自分の生き方に生かしていこうとすることができる。また，将来，医療関係の分野に進学や進路を考えている生徒が多く，医学に対して高い興味・関心をもっている。

社会科の授業においては，アジアやアフリカ，南アメリカなどの世界の諸地域の学習で，開発途上国の抱える問題や先進国との関係について一定の知識を獲得しているとともに，新聞記事のスクラップにも取り組んでいることから，国際協力や国際貢献に対する関心も高まってきている。さらに，来年度は職場体験学習を含む生き方学習を計画しており，働く意義や将来の生き方について経験を通して考える機会を得る予定である。こうした一連の学びをつむぐことによって，世界の平和を希求し人類の幸福に貢献していこうとする意識や態度がさらに高まっていくことが期待できる。

- そこで指導にあたっては，道徳の時間を中核とする総合単元的な構成を工夫することとした。

本時の授業においては，展開前段でベトナムの無償医療眼科医である服部氏を取り上げるとともに，終末段階に実際に途上国で医療活動に従事された方の体験談を位置付けながらねらいに迫りたい。服部医師は，2002年よりベトナムのハノイ国立眼科病院で最先端の内視鏡を駆使して網膜剥離や糖尿病網膜症などの治療や指導を始め，その技術は世界トップレベルの腕前の持ち主である。ベトナムでは報酬を一切受け取らないことから「ベトナムの赤ひげ先生」と呼ばれ，2007年にはその偉業をたたえ，ベトナム保健省より「人民保健勲章」を贈られている。先日，「みやざき中央新聞」に掲載され，校内に掲示されていることから，生徒にとっても身近な人物である。また，ゲストティチャーの丸山さんは，ベネズエラやホンジュラスなどの途上国で実際に医療活動に携わった経験者である。現在宮崎市在住の丸山さんの体験談を通して，国際社会に貢献していこうとする態度を育成できると考える。

【無償医療眼科医：服部先生】



【青年海外協力隊員：丸山さん】



4 学習指導過程

時	主な学習活動や学習内容	教師のかかわり	資料・準備
導入	1 ベトナムについて知っていることを発表する。 ・社会主義国 ・ベトナム戦争 ・東南アジアの位置する国 ・途上国	○ クイズ形式で行い，ベトナムに対する関心を高めさせる。 ○ 日本のベトナムへのODAが世界一であることにも触れ，ベトナムが途上国であることに気付かせる。	・PC ・プロジェクター

展開前段	<p>2 ベトナムで無償医療活動を行っている服部医師のDVDを視聴する。</p> <p>3 服部医師がベトナムで無償医療活動を行う理由について考え、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>なぜ、服部医師はベトナムで無償医療活動を行っているのだろうか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベトナムの失明するかもしれない人々を助けたいから。 ・ 途上国でお金をとって治療するのは、人の道に外れるから。 ・ 無償で行うことが自分にとって幸せだから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 服部医師がベトナムで無償医療活動に至った経緯について、簡単に補足する。 ○ 考える時間を確保し、「無償」で医療活動を行う意味について深く考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ DVD ・ ワークシート
展開後段	<p>4 もし、自分が服部医師ならベトナムで無償医療活動ができるか、できないかを考え、発表する。</p> <p><できる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 困っている人を助けたい ・ 医者としての使命 <p><できない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自信がない ・ 一生は無理だが期間限定なら 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 黒板にネームカードを貼ることで自分の立場を明確にするとともに、他の生徒がどのように考えているのかについて知り、考えを深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネームカード
終末	<p>5 青年海外協力隊員として南米で活躍した丸山加菜さんの経験談から、自分が就きたい職業について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の夢（なりたい職業） ・ その仕事をどこでやっていきたいか ・ 仕事に何を求めるか 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 働く目的は安定した収入だけではなく、広い視野に立って国際社会に貢献していこうとする態度も大切であることに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート

5 成果と課題

(1) 成果

- 総合単元的な構成の工夫を行ったことで、国際貢献を視野に入れたキャリア教育を行うことができた。
- JICAと連携を図ったことで、国際社会に貢献している青年海外協力隊員の方から直接話を聞くことができ、特に途上国に対する見方や考え方を変えることができた。
- 参観日を行うことによって、国際理解教育に対する保護者への啓発を行うことができた。

【生徒の感想より】

丸山さんの話を聞いて、「途上国の人に教える」と上から見るのではなく、「現地の人と心を通わせ、双方に教え合う」という考えが大切だと気付きました。私にとって青年海外協力隊は自分を見つめ直すきっかけとなりました。私の将来の夢は医者です。今回、途上国でも働いてみたいという夢が増えました。何事にもチャレンジし、回り道をしてもしっかり頑張っていきたいです。

(2) 課題

- 国際社会に貢献する人材を育成するためには、今後もキャリア教育を通して、国際社会に関するテーマ学習を設けるなど継続的な実践が必要である。